

香港の大気汚染問題

～青い空は戻ってくるのか～

香港駐在員事務所

秘書 Hau Siu Yun, June

ある環境保護団体の調べでは、香港のスモッグ発生頻度は英国から中国へ返還された 1997 年に比べ約 3 倍に増えており、実に 3 日に 1 回の割合となっています。

最近では、世界的に有名な「100 万ドルの夜景」がはっきりと見えない日が多いばかりではなく、香港市民の健康被害への影響も深刻化しており、大気汚染に起因する病気で入院する人は年間約 1 万人に達し、中には心臓病や呼吸器疾患などにより死亡する人もいます。

香港政府は、年々深刻化するこのような大気汚染問題に対し 2 年前より「青空を取り戻そう」をキャッチフレーズに「藍天行動(Blue Sky Action)」というキャンペーンを始めました。具体的には、クーラーの温度調節や自動車のアイドリング時のエンジン停止など、電力消費や自動車のガス排出量を削減する取組みであり、香港市民の関心も徐々に高まっていますが、いまだ明確な大気汚染の改善を示すまでには至っていません。

その大きな理由は、香港の大気汚染問題は香港自体に起因する物もありますが、やはり中国大陸から流れてくる工場煤煙などの影響が非常に高いからと言えます。

香港に隣接する広東省は飛躍的な経済発展にともない、中国国内を始め世界中から多くの工場や産業が集積しています。広東省政府が経済成長を重視した生産活動の拡大を進めた結果、広東省は現在では中国でも有数の大気汚染物質の発生源になっています。

これに対し香港政府は、広東省政府と一体となり大気汚染を含む環境改善対策を図ることを目的とした協力協定を結び技術的なサポートを行うとともに、広東省で操業する香港資本の企業に対し環境改善に向けたコンサルティングや設備導入への助成金を支出することを初めて決めました。これは「クリーン生産パートナーシップ計画」と呼ばれるもので、香港政府の拠出総額は 9,306 万香港ドル(約 12 億円)とされています。

今年の 10 月には香港で環境関連国際見本市「エコ・エキスポ・アジア」が開催されたこともあり、香港市民の環境問題への関心は一層高まりを見せています。

今後の香港政府および関係者の取組みにより、香港に以前のような青い空が戻ることを心から願っています。



写真 1 比較的空氣が良い時の香港
出所: <http://yahoo.com.hk>



写真 2 大気汚染が発生した時の香港
出所: <http://yahoo.com.hk>